

# 三陸の海産物を使った獣害対策は可能か

気仙沼高校5613A班

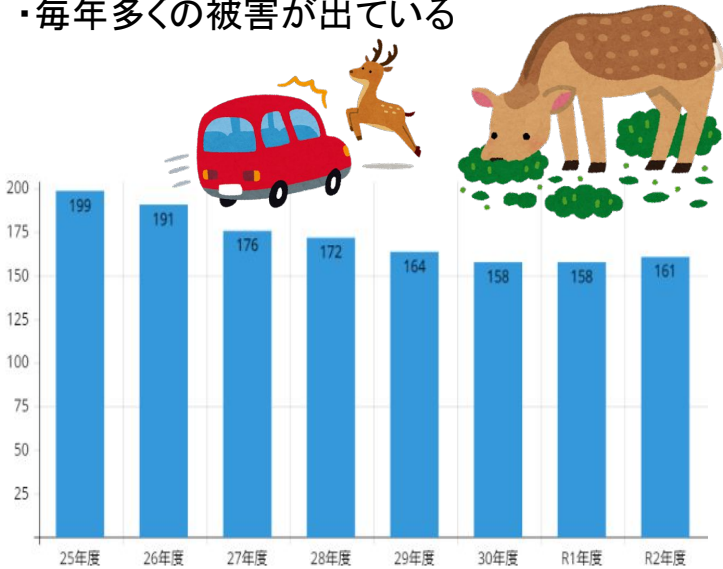
## 1. 序論

### 目的

・実用性のある野生動物対策を考える

### 背景

・毎年多くの被害が出ている



### 仮説

ヒトデの粉末は獣害対策として実用的である

## 2. 本論

根拠①ヒトデの粉は動物に忌避効果がある

○ヒトデについて

表 忌避が確認されている生き物

昆虫類	アリ、ハエ
は虫類	ヘビ
ほ乳類	シカ、ネコ
鳥類	カラス、ハト

等々

### メリット

田畑に撒いても安全・肥料になる

### デメリット

入手しにくい

根拠②三陸で作ることができる

気仙沼の漁師 S.Kさんによると

気仙沼では大量にヒトデは獲れるがすべて廃棄している



廃棄されているものを使えば

デメリットなし

## 参考文献・ご協力していただいた方々

すこやか広場 ヒトデのおかげ

<https://sukoyakahiroba.com/hitode/>

捕獲鳥獣のジビエ利用を巡る最近の状況 農林水産省

[suishin-7.pdf \(maff.go.jp\)](https://www.aff.go.jp/suishin-7.pdf)

いらすとや 表にあるイラストすべて

[かわいいフリー素材集 いらすとや \(irasutoya.com\)](https://www.irasutoya.com/)

リアス・アーク美術館館長 O様

野菜農家・猟師 M様 漁師 S様

そこで

これから5613A班の発表を始めます。先ずこのテーマを設定した経緯から述べさせていただきます、初めは動物との共生を目指し、研究活動を行っていたのですが二度のフィールドワークを行い、共生の実現は今の私たちには難しいということが分かってしまったので、ならば三陸の豊富な海産物を利用した獣害対策について研究をしようと思いこのテーマを設定しました。

まず序論です。私たちの目的は実用性のある野生動物対策を考えるこの目的の背景としては、毎年野生動物により多くの被害特に食害が出ているという現状があります。下の表をご覧ください。こちらは平成25年度から令和2年度、過去8年間の野生動物による被害総額です年々減少してきているとはいえ、まだ161億円と非常に高く、宮城県の農作物の被害だけでも2億円弱と対策を考える必要がある現状にあります。そこで私たちは、新たな獣害対策としてヒトデの粉末が実用的であるという仮説を立てました。ここでの実用的というのはヒトデの粉に獣害対策の効果があるということだと定義させていただきます。

次に本論として動物の忌避効果があるという根拠を述べさせていただきます。ヒトデにはサポニン、テルペンという成分が含まれており、それには生き物を忌避する効果があります。ヒトデの使い方としてはヒトデ約100gを4～5m毎におくことであり、忌避が確認されている生物はありハエ蛇しかねこカラスにハトと、これでもまだまだ一部なのですがそれでも十分多くの生物に効果があると分かります。ヒトデの粉には他にも撒くメリットがあり田畑にまけば肥料になる、とても安全であるという点が挙げられ、デメリットとしてはヒトデの粉の入手をしにくいという点があります

そこで根拠2ではこのデメリットは解決する方法を述べさせていただきます。気仙沼で漁師を営んでいる菅原かずろうさんによると 気仙沼ではヒトデは大量に獲れているがすべて廃棄されているとのことだったのでその廃棄されている分を使えばデメリットなしでヒトデの粉を使うことができます。

まとめと結論です。ヒトデを使えば獣害対策は可能です。なぜなら根拠①で示した通り多くの生物に忌避効果があり、根拠②で示した通りヒトデは大量廃棄されているためつくることができるからです。しかし、野生動物の被害がある根本的な理由は野生動物の個体数が増え、生息域が広がっていること。野生動物が人に慣れてしまい人間を恐ろしいものと感じていない点にあります

最後に今後の課題です。私たちが今後研究しなければいけない点として、一つ目にあくまでも忌避なので先ほど述べた根本的理由を解決できていない点。2つ目に猟師の高齢化が進み今以上に獣害が出るおそれがある点。3つ目にこの活動では利益を生みにくいという点があります。ご清聴ありがとうございました